学校番号	T0106

平成 31 年度　国語科

教科	国語	科目	国語総合	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「新編　国語総合」改訂版　（大修館書店）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」をキーワードに、古典や近世以降の文章などを教材として以下のことがらを学ぶ。具体的な取り組みとして、

・目的や場に応じた話し方や言葉づかいなどを身につける。
・文章の組立て，語句の意味，表記の仕方などを理解し，語彙（ごい）を豊かにする。
・常用漢字の読み、書きの力をつける。
・文語のきまり，訓読のきまりなどを理解する。

2　学習の到達目標

・国語を正しく表現し、しっかりと理解する能力を高める。
・伝え合う力、考える力、心を豊かさ，言語の感覚を育てる。
・言葉の文化に対する関心を深め，国語を尊重する態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価方法	行動の観察 記述の点検 （ノート、ワークシート等）	行動の観察 （発表等のパフォーマンスの評価）	記述の確認及び分析 （ワークシート、原稿用紙）	記述の確認及び分析（ワークシート） 定期考査	行動の観察 記述の確認 （ノート、ワークシート等） 定期考査 小テスト
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。					

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
前期	水の東西	・文章の論の進め方の特色をつかむ。 ・日本文化に対する関心をもつ。	○	○	○	○	○	a:文化の違いに興味を持つ b:比較文化の表現を聞き取っているか。 c: 段落ごとの要旨をまとめることができるか。 d: 朗読がすらすらできるか。 e:論の展開が理解できるか。	課題プリント、ノート、小テスト、定期テスト
	心が生まれた惑星	・論理の展開をたどり、心が生まれた根拠が立証されてゆく過程を学ぶ。	○	○	○			a:人類の歴史に興味を持てているか。 b:実証的な論理展開をたどれているか。 c: 段落ごとの要旨をまとめることができるか。	
後期	徒然草	・自然や人間に対する作者の見方、感じ方、考え方を理解する。 ・随筆の文章表現の特色について理解する。 ・古典のことば遊びについて知り、古典に興味・関心を広げる。 ・古典の文法の基礎について理解を深める。				○	○	d:暗唱ができるか。 e:古語の意味、文法を理解できているか。	課題プリント、ノート、小テスト、定期テスト
	訓読のきまり　格言	・訓読のきまりを理解する。 ・漢語の基本構造を理解する。 ・格言を読んで、ものの見方、考え方を広げたり深めたりする。 ・漢文を音読し、漢文に親しむ。	○			○	○	a:漢文の世界に親しんでいるか。 d:暗唱できるか。 e:訓読のルールを理解できているか。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:話す・聞く能力
c:書く能力　　d:読む能力　　e:知識・理解

※　原則として一つの単元ですべての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○をつけている。